



空と宇宙博 岐阜かがみがはら航空宇宙博物館  
GIFU-KAKAMIGAHARA AIR AND SPACE MUSEUM

各務原市政記者クラブ同時配布資料  
岐阜県政記者クラブ加盟社各位

令和6年12月18日(水)岐阜県発表資料		
担当課・係	担当者	電話番号
国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 地域協学センター、工学部附属宇宙研究利用推進センター	佐々木 実 宮坂 武志	直通・FAX 058-293-3880 直通・FAX 058-293-2523
航空宇宙産業課 産業振興係	鎌倉 光利 高井 淳	内線3762 直通058-272-8836 FAX 058-278-2653
各務原市 産業活力部 観光交流課	河瀬 悟史	直通058-383-9926 FAX 058-389-0765
公益財団法人岐阜かがみがはら航空宇宙博物館 学芸課	平野 好一	直通058-386-8500 FAX 058-386-9912

### 岐阜大学との連携事業

## 宇宙工学講座の閉講式を開催します

県では、宇宙産業を岐阜県の中核産業として育成するため、岐阜大学と連携し、令和3年度に、ぎふ宇宙プロジェクト研究会を立ち上げました。

このたび、本研究会の取組みの一環として、県内の高等学校、高等専門学校の生徒を対象に6月から開催した宇宙工学講座<sup>\*1</sup>の閉講式を、下記のとおり開催します。

### 記

1 日 時 令和6年12月21日(土) 13:00～16:00

2 場 所 岐阜大学 講堂(岐阜市柳戸1-1)

3 概 要 (1) 開会の挨拶

岐阜大学学長 よしだ かずひろ 吉田 和弘 氏

(2) 関係機関出席者紹介

(3) 協力機関ビデオメッセージ

(4) 講座実施報告

(5) 宇宙甲子園缶サット部門報告<sup>\*2</sup>

(6) ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト<sup>\*3</sup>報告

(7) 特別講演「オーロラの科学」<sup>\*4</sup>

名古屋大学宇宙地球環境研究所 所長 しおかわ かずお 塩川 和夫 氏

(8) 修了証書授与、優秀受講生表彰

(9) 閉会の挨拶

岐阜大学工学部附属宇宙研究利用推進センター長 みやさか たけし 宮坂 武志 氏

- 4 **出席者** 宇宙工学講座を受講した18校86名（県内高等学校及び高等専門学校の学生）のうち希望者
- 5 **その他** 取材を希望される場合、20日（金）17：00までに、岐阜大学地域協学センター佐々木（058-293-3880）まで、電話にてご連絡ください。

## ※1 令和6年度「宇宙工学講座」カリキュラム

回	実施日	内容（講座テーマ）	場所
開講式	6月23日（日）	缶サット甲子園全国大会報告 特別講演「火星衛星探査計画 MMX」 グループワーク	岐阜かかみがはら 航空宇宙博物館
1	7月3日（水）	モデルロケット・缶サットを 2000mまで打ち上げるには？	所属校
2	7月17日（水）	超音速飛行から宇宙へ	所属校
3	9月4日（水）	宇宙軌道とロケット	所属校
4	9月18日（水）	宇宙機の電力システム	所属校
5	9月25日（水）	宇宙機の信号処理	所属校
6	10月2日（水）	無重力環境とその利用	所属校
見学	10月5日（土）	国立天文台野辺山宇宙電波観測所（長野県）	同左
	10月6日（日）	JAXA筑波宇宙センター（茨城県）	
7	10月16日（水）	軌道上実験プロジェクトの実際	所属校
8	10月30日（水）	宇宙科学の最前線	所属校
9	11月13日（水）	多波長観測で探る宇宙の極限現象	所属校
閉講式	12月21日（土）	修了証書授与、特別講演	岐阜大学講堂

## ※2 宇宙甲子園缶サット部門

高校生が自作した缶サット（飲料缶サイズの模擬人工衛星）およびキャリア（缶サットを搭載する機構）をロケットで打上げ、上空で放出し、各自で設定したカメラやセンサ等を用いてミッションを実行するものです。従来の競技会のように「定められた技能」を競うのではなく、技術力や独創性、斬新さや「coolさ」を競うもの。



参考HP: <http://www.space-koshien.com/cansat/index.html>

## ※3 ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト

ぎふ宇宙プロジェクト研究会の取組みの一環として、岐阜大学が行う人材育成事業の一つで、令和7年4月の打上げを目指して県内工業高校生が小型人工衛星の設計・製造・打上げ・運用までを一貫して行う実践的な高度宇宙技術者育成プログラム。



ぎふハイスクールサットフライトモデル

### 【仕様】

寸 法：縦 10cm×横 10cm×高さ約 20cm（2U）

質 量：1.6kg

搭載予定機器：コンピュータ、カメラ（近赤外，4K，広角等）、  
バッテリー、太陽電池パネル、各種センサ  
（温度・ジャイロ等）

#### ※4 特別講演「オーロラの科学」講演概要

極地の夜空に幻想的な姿をみせるオーロラは、美しいだけでなく、地球のまわりの宇宙空間のさまざまなプラズマ現象を目に見える形で映しています。太陽の爆発に伴う磁気嵐が発生すると、日本のような低緯度までオーロラが広がってくることもあります。

ここでは、オーロラの光る原理やオーロラと私たちの生活とのかかわりについて、わかりやすくご紹介します。

<講師：塩川 和夫（しおかわ かずお）氏>

1965 年神奈川県生まれ。

1988 年東北大学理学部天文及び地球物理学科第2 卒業

1990 年同大学院地球物理学専攻博士前期課程修了

1990 年より名古屋大学助手、1994 年博士（理学）取得（名古屋大学）

1996-1997 ドイツ・マックスプランク研究所客員研究員

1999 年名古屋大学助教授、2015 年名古屋大学教授。

2023 年より名古屋大学宇宙地球環境研究所所長

2019 年より太陽地球系物理学科学委員会（SCOSTEP）会長

（国際学術会議傘下で国連宇宙平和利用委員会恒久オブザーバー）

専門：宇宙空間物理学及び超高層大気物理学

（地上からのオーロラ・大気光や電磁場変動のフィールド観測）